2005年1月の格言

今回の格言は・・・

厳しい時代　まさに　大乱の時代となります。
この時代は何が起こってもおかしくない時代です！

何が起きても当たり前！
何かが起これば　それに対して　その時にベストと思える事をすればよいのです。
その都度　最高と思える決断をすれば　迷いも憂いも　超える事が出来ます。

・・・「乙酉」おつとり　の意味するところとは・・・
（おつぼく　の　とり）（きのと　の　とり）とも読みます。

古来中国で生まれた「干支暦」（かんしれき）は・・・
10種類の「干」と12種類の「支」との組み合わせで成立しており
「乙」を　草花に例えています。
つる草とも呼ばれ　大木に寄り添って生きてゆく　と言う意味があります。

そんな意味合いから考えられる事は・・・

＊今まで以上に　アメリカという大木に寄りかかって
生きてゆく日本がイメージされます。

＊中国の意向に　振り回される事も多くなりそうです。

・・・『乙の総合解釈』「乙」とは・・・

まだ伸びきらずに　折れ曲がっている状況。
**　言うならば　上昇の前の　足踏みの状態。準備段階だと言えます。**
国内の問題が　多く発生します。
国内が相当混乱する。と言う意味です。

「酉」を文字の上から解釈すると・・・

東西南北の「西」と言う文字に　横棒を書き入れたものです。
西にカンヌキを掛けて　閉めると言う意味です。
落語などで　「酉を勤める」と言う表現がありますが、
意味は　その日の芸の最後の締めくくりです。

＊「酉年」とは・・・１つの事柄に終止符を打つ。
その為に　国内のそれぞれの人の価値観が　ぶつかり合う場面が出てきます

『乙酉の総合解釈』
砂漠に咲くサボテンのようなものです。
まさに不毛地帯　すなわち　全てにおいて潤いがなく
トゲトゲした空気と　無気力感が　国を覆います。

平成17年「乙酉」の前の「乙酉」→昭和20年

過去の「乙酉」の年、昭和20年（1945年）
先の大戦「大東亜戦争」に日本が敗北した年
日本が大敗北した年から数えて　60年目。
日本にとっては「還暦」の、まさに戦後60年に渡って存在してきた
政治と経済が　改めて生まれ変わる、年なのです。

昭　和　20　年　の　出　来　事	
1月	東海地方に大地震が発生。約２０００人が亡くなりました。
3月	米軍の□-29爆撃機300機が　夜間東京に襲来して大空襲。 硫黄島に米軍が上陸して　守備隊が全滅しました。
4月	１日　米軍が沖縄本島に上陸。小磯内閣が総辞職。
8月	□6日　広島に原子爆弾が投下。
	9日　長崎に原子爆弾が投下。ソ連が対日布告して満州に侵入。
	14日　御前会議を開いてポツダム宣言を受諾。
	15日　天皇陛下が終戦の放送。

歴史に見る「乙酉」「乙酉」を振り返って・・・

60年前には日本の大敗北。
それに続く米国の日本支配と米国スタンダードの日本への押し付け。

　東海地方の大地震。
また松本藩での大凶作。
さらには　宗教団体での対立。

**　中国との交流などなどの特徴があります。**

この歴史的な出来事を踏まえて考えると・・・

来る平成17年は「天変地異」　並びに　諸外国との軋轢（あつれき）など
難問載積（さんせき）しそうな流れです。

こんな時代の過ごし方は「頭を柔らかくして生きる時代」です。